

空母
導入

安倍政権が攻撃型「防衛大綱」を決定

「専守防衛」投げすて

海外で戦争する国づくりへ



▲南シナ海で米駆逐艦と並んで航行する海上自衛隊の護衛艦「いずも」(右) = 2017年5月(米海軍ウェブサイトから)

安倍政権は昨年末の閣議で、保有する兵力規模などを示す「防衛計画の大綱」とそれに基づく今後5年間の兵器調達計画＝中期防衛力整備計画を決めました。5年間に27兆円を超える軍事費投入を決めたほか、海上自衛隊の「いずも」型護衛艦をステルス戦闘機を搭載できるように改造する事実上の空母化など、攻撃的兵器導入を盛り込み、自衛隊を海外で戦争する軍隊につくりかえようとしています。

世界平和の流れに有害

共産党・小池書記局長が批判

日本共産党の小池晃書記局長は12月18日談話を発表し、現行憲法のもとで「専守防衛」を建前としてきた自衛隊を「海外派兵の軍隊へ明確に変貌させて、『米国と肩を並べて戦争できる国』にしようとするものであり、絶対に許すわけにはいかない」と批判しました(右写真)。

また政府が「戦闘機を常時搭載しないから、攻撃型空母でない」としていることについても、「戦闘機を搭載する頻度とは関係ない。他国を攻撃する能力を持つことになる」と指摘しています。さらに談話は、朝鮮半島の非核化と平和に向けた動きにふれ、「安倍政権の大軍拡と『戦争をする国』づくりは、世界史的な平和の流れに、有害な流れを持ち込むだけ」と指摘。この時代錯誤で危険な戦略と計画の撤回を求めています。



憲法9条を守りぬきます!!

「専守防衛」をかなぐり捨て「攻撃的武器の爆買い」で軍拡に走る安倍政権の暴走は許せません。市民と野党の共同を強め、大軍拡や9条改憲にストップをかけるため、力を合わせましょう。



参議院議員(東京選挙区選出)

きらよしこ

吉良よし子

日本共産党

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2019年1月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可